

第3学年 算数科学習指導案

1 単元名 「わり算」

2 単元の目標

- 除法の意味について理解し、それをを用いる能力を身に付ける。
- ㊦ 身の回りから除法で表される事象を進んで探し、数量の関係を除法の式に表そうとする。
- ㊦ 等分除と包含除を除法として統合的にとらえ、わり算の意味を説明することができる。
- ㊦ 除法が用いられる場合（等分除，包含除）を式で表すことができ、また、乗法九九を用いて答えを求めることができる。
- ㊦ 除法が用いられる場合（等分除，包含除），及び除法の答えは乗法九九を用いて求められることを理解する。

3 こんな子どもに

本学年の子どもたちは、第2学年第10単元「かけ算（1）」において、乗法の意味を『1つ分の数×いくつ分＝全部の数』で表現することを理解している。第3学年第1単元「かけ算」の乗法の学習においては、 $4 \times \square = 28$ 、 $\square \times 5 = 30$ といった、被乗数や乗数が未知数の式で、九九を適用して□にあてはまる数を求めることを学習してきた。交流場面での伝え合う活動の実態としては、図を使ったりおはじきを使ったりして友達にわかりやすく伝えようとする姿が見られるようになってきている。

4 こんな内容を

本単元では、除法の意味について理解し、それをを用いる能力を身に付けることを主なねらいとしている。つまり、①わり算は等分除と包含除の2つの意味があること。②等分除と包含除を除法として統合的にとらえること。③除法が用いられる場合（等分除と包含除）を式で表すことができ、また、乗法九九を用いて答えを求めることができること。④除法が用いられる場合（等分除と包含除）及び、除法の答えは乗法九九を用いて求められること、などである。また、この単元では、第3学年の「あまりのあるわり算」、第4学年の「わり算の筆算」の学習へ発展していくものである。

5 こんな活動で

本単元の指導にあたっては、除法の意味理解を具体物操作を取り入れながら学習し、自分の考えを伝え合う活動を仕組んでいくことで、子どもたちの意欲を高め、学び合う力や高め合う力を育てるようにした。そのために次のような手だてを取り入れる。

単元導入では、日常生活の中での分けた経験を話し合い、具体物を使って分けてみる活動から入る。おはじきによる具体的操作を大切にし、等分除の意味理解を操作→図→言葉→式→答えと子どもたちの思考が具体から抽象へとつながることができるようにする。

単元中盤では、等分除と同じように、具体物操作を大切にしながら包含除の意味理解を図っていきたい。その後、十分に等分除，包含除の意味理解ができたところで、その2つをわり算として統合できることを理解できるようにする。新しい数理を獲得するタイプ1，数理を練り上げるタイプ2，既習を活用したタイプ3を採用し、2人組や全体交流などの交流形態で伝え合う活動を行わせ、子どもたちが、より確かな数理を獲得することができるようにする。

6 単元指導計画（全 1 1 時間）※第 3 時の学習タイプは第 2 時に同じ

	第 1 時（組本時）	第 2 時	第 4 時	第 5 時
本時目標	・等分除の意味を理解する。	・除法に関する用語、記号を理解する。	・包含除の意味を理解する。	・用語「わられる数」「わる数」の意味を知る。
学習内容と伝え合う活動	<p>【プロローグ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体交流 ・日常生活での分けた経験を想起する ・おはじき操作（同じ数ずつ分ける） <p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p>12 このあめを 3 人で同じ数ずつ分けると 1 人分は何になりますか。</p> <p>1 人分の数のもともめ方を考えよう。</p> <p>2 見通しを立てる【二人組→全体交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはじきをつかって 1 個ずつ分ける。 ・図 ・ひき算 ・かけ算 <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【全体交流】</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>まとめ</p> <p>1 人分を求めるときは図や絵、ひき算やかけ算を使ってもとめられる。</p>	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p>18 このあめを 6 人で同じ数ずつ分けると 1 人分は何になりますか。</p> <p>1 人分の数のもともめ方を考えよう。</p> <p>2 見通しを立てる【二人組→全体交流】</p> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【全体交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはじきを使って 1 個ずつ分ける。 ・はじめに 2 個ずつ分けて、残りを分ける。 ・6 人で分けるには、1 回に 6 個必要で、それが 3 回だから 1 人分は 3 個。18 - 6 - 6 - 6 = 0 で 3 回引けるから 3 個。 ・新しい計算「わり算」を知る。 ・記号「÷」の読み方、書き方を知る。 <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>18 ÷ 6 = 3 と式に表す。「わり算」という。</p>	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p>パイが 12 こあります。1 人に 3 こずつ分けると、何人に分けられますか。</p> <p>どのように答えをもとめるのか考えよう。</p> <p>2 見通しを立てる【二人組→全体交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはじきを使って 3 個ずつ分ける。 ・図 ・ひき算 ・たし算 <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【全体交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはじきや図を使って 3 個ずつ分けると 4 人に分けられるので答えは 4 人。 ・12 - 3 - 3 - 3 - 3 = 0 で 4 回ひけるので 4 人。 ・3 こずつ × 何人分 = 12 なので 3 × □ = 12 となり、□は 4 となり 4 人。 ・12 ÷ 3 = 4 <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>12 このパイを 3 こずつ分けると 4 人に分けられる。このときもわり算でもとめられる。</p>	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p>15 本の花を、3 本ずつたばにします。花たばは、いくつできますか。</p> <p>花たばは、いくつできるかの答えのもともめ方を考えよう。</p> <p>2 見通しを立てる【全体交流】</p> <p>3 自力解決する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはじき操作・図・式 ・言葉 <p>4 課題を追究する【全体交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはじきや図を使って 3 本ずつに分けていくと 5 こに分けられるので答えは 5 つ。 ・15 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 = 0 で 5 回ひけるので答えは 5 つ。 ・15 ÷ 3 = 5 ・15 ÷ 3 の式で、15 をわられる数といい、3 をわる数ということを知る。 <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>まとめ</p> <p>花たばの数の求め方はわり算で 15 ÷ 3 をするとよい。15 ÷ 3 の式で、15 をわられる数といい、3 をわる数という。</p>
伝え合う活動の支援	・見通しを持つ段階で二人組、全体交流と段階をふむことで、1 人分の求め方をおはじきを使って具体的操作でつかませる。	・課題解決の段階では全体交流で出た考えからさらに新しい計算を知らせる。	・見通しを持つ段階では二人組でのおはじき操作による伝え合う活動をする。全体交流の場が出た考えから何人分を求めるときの方法を確認する。	・課題追究の段階では包含除の 2 時目になるのでおはじき操作→図→言葉→式→答えと伝え合う活動を通して子どもたちの思考が具体から抽象へとつながるようにする。
	タイプ 1【見通し重視型】	タイプ 2【練り上げ重視型】	タイプ 1【見通し重視型】	タイプ 2【練り上げ重視型】

	第6時 (組本時)	第7時	第8時 (組本時)	第9時
本時目標	・包含除の答えの見つけ方を理解する。	・等分除と包含除は、「わり算」として統合できることを理解し、除法計算の答えを求めめる。	・等分除と包含除の理解を深めることができる。	・被除数が0の場合や被除数と序数が同じ場合のわり算ができる。
学習内容と伝え合う活動	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p>いちごが20こあります。1人に5こずつ分けると、何人に分けられますか。</p> <p>20÷5の答えをはやくてかんたんで正かくにみつける方法を考えよう。</p> <p>2 見通しを立てる【全体交流】</p> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【全体交流】</p> <p>・20-5-5-5-5=0で4回ひけるので答えは4人。</p> <p>・5こずつが4回で20になるので答えは4人。</p> <p>・1人分×人数=20より5×□=20 答えは4人。</p> <p>・ひき算は、くり下がりがあつたり何度も計算したりするからまちがえやすい。</p> <p>・かけ算ははやくてかんたんで正かくに答えを求めることができる。</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>20÷5の答えを求めるときは、かけ算九九(5のだん)を使うとはやく、かんたんで正かくにもとめられる。</p>	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p>6÷2の式になる問題を作りました。2人が作った問題の、答えのもとめ方を考えましょう。</p> <p>2つの問題をくらべてもとめ方を考えよう。</p> <p>2 見通しを立てる【二人組→全体交流】</p> <p>・おはじきを使って</p> <p>・図</p> <p>・式</p> <p>3 自力解決する</p> <p>・おはじき操作(図・式・言葉)</p> <p>4 課題を追究する【全体交流】</p> <p>・どちらもあめを1回に2個ずつ分けている。</p> <p>・2個ずつ3回分けている。</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>まとめ</p> <p>わり算は1人分の数をもとめたり何人に分けられるかをもとめたりするときにつかう。</p>	<p>1 めあてをつかむ</p> <p>24÷□の式になる問題を作ってなまわけをしよう。</p> <p>2 見通しを立てる【全体交流】</p> <p>・1人分は何こになるかの問題が作れる。</p> <p>・何人に分けられるかの問題を作ることができる。</p> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【二人組】</p> <p>①作った問題を伝え合う</p> <p>・24本のえんぴつを4人で同じ数ずつ分けます。1人分は何本ですか。</p> <p>・24このあめを4こずつわけると何人に分けられますか。</p> <p>②作った問題が等分除か包含除か根拠を話し合う。</p> <p>【全体交流】</p> <p>・作った問題が等分除か包含除か仲間分けをし、その根拠を明らかにする。</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>まとめ</p> <p>わり算の問題は、1人分をもとめているか、何人分かをもとめているかに目をつけるとなまわけができる。</p>	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p>はこに入っているクッキー□こを、4人で同じ数ずつ分けます。1人分は何こになりますか。</p> <p>0÷4の答えの求め方を考えよう。</p> <p>2 見通しを立てる【全体交流】</p> <p>・おはじきを使って</p> <p>・図を使って</p> <p>・□÷4=1人分の数</p> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【全体交流】</p> <p>・クッキーが8個の時は8÷4=2、4個の時は4÷4=1、0個の時には1個もないので0÷4=0</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>まとめ</p> <p>4÷4や0÷4の時もかけ算を使って答えをもとめるとよい。</p>
伝え合う活動の支援	・課題追究の段階では伝え合う活動の視点としてはいろいろな答えの求め方だけに終わらせず「はかせ」に目を向けさせ、かけ算九九を使った求め方の良さを確認する。	・見通しを持つ段階でおはじきを操作し、二人組で操作したことを伝え合う活動をする。そして、等分除、包含除になる根拠を図や言葉で明らかにしていくようにする。	・課題を追究する段階で、まず、二人組での伝え合う活動を行う。その際、等分除か包含除か図を活用しながら伝え合う。全体での交流では作った問題の仲間分けをし、その根拠を伝え合う。	・見通しをもつ段階でおはじきを操作し伝え合う活動を行う。
	タイプ2【練り上げ重視型】	タイプ1【見通し重視型】	タイプ3【交流活動重視型】	タイプ1【見通し重視型】

1 本時目標

- 等分除の意味を理解する。

2 本時のタイプ

タイプ1【見通し重視型】：見通しでの考え方を多様化していく伝え合う活動

3 本時授業仮説

見通す段階において、次のような支援を行えば、同じ数ずつ分けながら1人分を求める等分除の意味を理解するであろう。

- ①自分の見通しを確かめるための二人組での伝え合う活動
自分の見通しを立てることができるための全体交流での伝え合う活動
- ②解決の見通しを多様化していく発問

4 本時指導の考え方

本時学習指導は、この単元の導入であり等分除の意味を理解することをねらいとしている。これまで生活の中で意識せずに「分ける」経験を多くしている。したがって、本時は、具体的に「分ける」という操作を通して等分除の意味を理解させていく。つまり「つかむ」「見通す」段階がより重要であると考える。そのため、見通しを重視するタイプ1【見通し重視型】で本時学習を行う。

導入では、挿絵や生活経験から何かを分けた経験を話し合う。そしてどのように分けたかを考えさせる発問をもとに具体的操作をし、全体で交流する。全体の個数がちがっても4人で同じ数ずつ分けるという操作を通して等分除の意味に気づかせる。それから本時の問題を把握させる。

伝え合う活動Ⅰの見通しの段階では、全体交流で具体的操作や図の活用、式に表す(かけ算・引き算)などの多様な考えがでるようになるために、まず、二人組での伝え合う活動を行う。

伝え合う活動Ⅱでは、具体的操作、図、式で表した考えを伝え合うことができるようにする。発表後はまず「何か質問はありませんか。」と尋ね、追究したことを主体的にとらえることができるようにする。

5 授業の展開 (1/11)

	学習活動と伝え合う活動の内容	・主な支援と*伝え合う活動に関わる支援
つかむ	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p>(1)「分けた」経験を話し合い、分ける活動をする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>問題</p> <p>ふくろに入ったあめを4人で同じ数ずつ分けると、1人分は何こになりますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・8こを4人でわけると1人分は2こ 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵や小黒板を準備しておく。 *生活経験を想起し、伝え合う活動の活性化を図るために挿絵を掲示する。 「どんなことに気をつけて分けたのですか。」 *全体交流での伝え合う活動を行う。 ・具体的活動を通して4人で同じ数ずつ分けるという意味をつかむことができるようにする。 ・1人分が何個になるかに着目させる。 ・おはじきを操作するように促す。

(2) 問題を把握する

学習問題

あめが12こあります。3人で同じ数ずつ分けると1人分は何こになるでしょう。

(3) めあてをつかむ

めあて

1人分は何こになるかのもとめ方を考えよう。

見
通
す

2 見通しをたて、伝え合う【伝え合う活動Ⅰ】

〈二人組の交流〉

- おはじきを使って、3人に同じ数ずつに分けて1人分の答えをもとめられそう。
- 図を書いて1人分が何こになるかを求めよう。
- ひき算を使って、1人分が何こになるかを求めよう。
- かけ算九九を使っても1人分が何こになるか答えをもとめることができるはずだ。

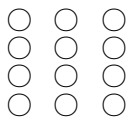
〈全体交流〉

○3人で同じ数ずつ分けて1人分を求める方法は、いろいろありそう。

3 自力解決する

4 課題を追究する【伝え合う活動Ⅱ】

- 具体的な操作で求めるとできる。
- 図で答えを求めると



- $12 - 3 - 3 - 3 - 3 = 0$
4回ひいたので1人分は4こ
- かけ算九九を使って答えを求めると
- $\times 3 = 12$
- こずつの3人分で12こ

追
究
す
る

5 本時学習を振り返る

まとめ

1人分をもとめる時は、たし算やひき算やかけ算を使ってもとめられる。

振
り
返
る

- ・結果を伝える際は、操作をしながら説明することで、等分除の意味を共通理解することができるようにする。
- ・大切な数や言葉に線、たずねられていることに波線を入れるようにし、問題をつかむことができるようにする。
- ・めあてがつかめるように線を入れたことをもとに考えることができるようにする。

自分の見通しをたてることのできるために

「1人分が何個になるかを求めるには、今まで学習したどんな考えを使えばできそうですか。」

- *二人組での伝え合う活動を行う。
- ・自分の見通しをおはじきや図や式を使って伝え合うように促す。
- *全体交流での伝え合う活動を行う。
- ・もし式で表す考えがでないときには、おはじきの操作や図を確認し、式に結び付けることができるようにする。
- *自力解決が困難な子どもには、3つの皿(枠)の絵を渡し、おはじき操作をより具体的に行うことができるようにする。
- *全体での伝え合う活動を行う。
- ・操作をしながら伝え合うことができるようにする。また1人分を求める時はどの考えも同じ数ずつ分けていることを確認できるようにする。
- *質問したり答えたりしたことで明らかになったことは板書する。
- *それぞれの考えのよさを理解し、本時学習をまとめる。

1 本時目標

- 包含除の答えの見つけ方を理解する。

2 本時のタイプ

タイプ2【練り上げ重視型】：追究での多様な考え方を比較検討し焦点化していく伝え合う活動

3 本時授業仮説

「追究する」段階において次のような支援を行えば、包含除のはやくて簡単で正確な答えの求め方を理解することができるであろう。

①図、式、言葉を使いながら多様な考えを交流するための伝え合う活動
 「はやす・簡単さ・正確さ」の観点から、お互いの考えを比較検討させるための伝え合う活動

②「はやす・簡単さ・正確さ」の観点から数学的な処理のよさに焦点化していく発問

4 本時指導の考え方

本時学習は、包含除の場面でも乗法九九を用いるとすばやく簡単に答えを求めることができるということを子どもたちが理解することをねらいとしている。そこで追究場面での交流において、それぞれの考えの有効性の視点から数理を練り上げていくことに重点を置く。そのため、タイプ2【練り上げ重視型】で本時学習を行う。

伝え合う活動Ⅰでは、学習問題を把握した上で、見通しについて伝え合い、一人一人が自分なりの見通しを持つことができるようにする。この見通しの段階で、図の活用、計算する（かけ算、たし算、ひき算、わり算）など多様に考えが出てくるように伝え合う活動を行う。

伝え合う活動Ⅱでは、図や式で表した考えを伝え合う中で、それぞれの考えを持つ代表児に発表させる。そして、包含除の場面でも乗法九九を用いた方がすばやく簡単で正確に答えを求めることができるということに気付かせるために、それぞれの考え方の共通点やよさを伝え合う活動をする。

5 授業の展開（6／11）

	学習活動と伝え合う活動の内容	・主な支援と*伝え合う活動に関わる支援
つかむ	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>学習問題</p> <p>いちごが20こあります。1人に5こずつ分けると、何人に分けられますか。</p> </div> <p>式 $20 \div 5$</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>めあて</p> <p>$20 \div 5$の答えをはやくてかんたんで正かくに見つける方ほうを考えよう。</p> </div> <p>2 見通しを立てる【伝え合う活動Ⅰ】</p> <p>○図を描き5個ずつ分けて答えを求める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物を準備しておく。 ・大切な数や言葉に下線、たずねられていることに波線を入れるようにし、問題をつかむことができるようにする。 ・本時も何人分に分けられるかということからわり算で立式できるようにする。 ・自分なりの方法を学習プリントに書くことができるようにする。

見 通 す	<p>○ひき算を使って、5個ずつ配って答えを求める。</p> <p>○たし算を使って、5個ずつ配って答えを求める。</p> <p>○かけ算九九を利用して、5個ずつ分けて答えを求める。</p>	<p>*既習学習の掲示物より見通しをもたせる。(図、ひき算、たし算、かけ算)</p> <p>*見通しを発表し、自分にあった方法を選択できるようにする。</p>
追 究 す る	<p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【伝え合う活動Ⅱ】</p> <p>〈全体での伝え合う活動①〉</p> <p>○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○</p> <p style="text-align: center;">答え 4人</p> <p>○全部で20個、一人分は5個、一人ずつ引いていくと</p> <p>1人に配ると、$20-5=15$</p> <p>2人に配ると、$15-5=10$</p> <p>3人に配ると、$10-5=5$</p> <p>4人に配ると、$5-5=0$ 答えは4人</p> <p>○分けられる人数を□人とする、$5 \times \square = 20$</p> <p>$5 \times 4 = 20$ 答えは4人</p> <p>〈全体での伝え合う活動②〉</p> <p>○ひき算は、くり下がりがあつたり何度も計算したりするから間違えやすい。</p> <p>○図は、数が多くなるとかくのが大変になる。</p> <p>○かけ算はすばやく簡単に答えを求めることができる。</p>	<p>*全体での伝え合う活動を行う。</p> <p>*図、式、言葉を使いながら、多様な考えを伝え合う。</p> <p>*ひき算の方法やかけ算の方法について、それぞれの考えのよさをお互いが考え比較検討する伝え合う活動を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>多様な考えを焦点化するために 「どの方法が『はやくて、簡単で、正確に』計算することができるかを考え、伝え合ひましょう。」</p> </div> <p>*それぞれの考えのよさを理解し、より便利な方法としてかけ算を使うとよいことが分かるようにする。</p>
振 り 返 る	<p>5 本時学習を振り返る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <p>20 ÷ 5の答えをもとめるときはかけ算九九(5のだん)を使うとはやくてかんたんで正かくにできる。</p> </div>	

1 本時目標

- $24 \div \square$ の式になる問題を作り，等分除と包含除の理解を深めることができる。

2 本時のタイプ

タイプ3【交流活動重視型】：追究での考え方を伝え合う活動

3 本時授業仮説

「追究する」段階において次のような支援を行えば，等分除と包含除の理解を深めることができるであろう。

- ①作った問題文が等分除か包含除かを話し合うための二人組での伝え合う活動
等分除と包含除の違いに目を向けさせ，分類していくための伝え合う活動
- ②等分除と包含除の違いに目を向けさせ，その根拠を考えさせる発問

4 本時指導の考え方

本時は単元計画の終末にあたる段階であり，これまでに学習した除法の2つの意味についての理解をより確かにすることをねらった時間である。前時では， $6 \div 2$ の式になる等分除と包含除の問題を比べ，それぞれの意味を図や操作で明らかにする活動を行っている。本時は前時の2つの問題を振り返り，等分除と包含除を確認することで見通しが立ち，素早く追究活動へと取り組むことができると考える。そして，追究する段階での交流を通して等分除と包含除の理解を深めさせたい。そのため，交流活動を重視するタイプ3【交流活動重視型】で本時学習を行う。

伝え合う活動Ⅰでは， $24 \div \square$ の問題を作ることを伝え，わり算には等分除と包含除の2つの種類の問題があったことを想起し，見通しを持つ。

伝え合う活動Ⅱでは，等分除と包含除の違いに目を向けさせるために，まず二人組で，図や操作などを使い友だちが作った問題が等分除，包含除どちらの問題か根拠を出させて伝え合う活動をする。その後，全体で代表児の問題の仲間分けをし，仲間分けが正解かどうか，根拠をもとに伝え合う活動をする。

5 授業の展開（8／11）

	学習活動と伝え合う活動の内容	・主な支援と*伝え合う活動に関わる支援
つ か む	1 本時学習のめあてをつかむ ①めあて ② $24 \div \square$ の式になる問題を作ってなにかまわ けをしよう。	
見 通 す	2 見通しを立てる【伝え合う活動Ⅰ】 ○ 同じ数ずつ分けて一人分を求める問題 ○ 何人分になるかを求める問題	*全体での伝え合う活動を行う。 ・掲示物を活用し，既習の等分除と包含除の問題作りの学習を想起し，本時学習の見通しをもつことができるようにする。

<p>追 究 す る</p>	<p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する【伝え合う活動Ⅱ】 予想される子どもの考え</p> <p>①1人分を求める問題 24このガムを4人に同じ数ずつ分けます。1人分は何こになりますか。$24 \div 4 = 6$ $\square \times 4 = 24$ 答え 1人分は6こ</p> <p>②何人に分けられるかを求める問題 24本のえんぴつを4本ずつ分けると、何人に分けられますか。 $24 \div 4 = 6$ $4 \times \square = 24$ 答え 6人に分けられる。</p> <p>(1)二人組で自分の作った問題を出し合い、作った問題が等分除か包含除かの根拠を伝え合う。 ○4人に同じ数ずつ分けるから、1人1つずつ分けていきます。1人分は6こになります。 ○4本ずつ分けると、と書いてあるので1人に4本ずつ分けていきます。6人に分けられます。</p> <p>(2)代表の子どもの問題を仲間分けし、その仲間分けが正解かどうか根拠をもとに伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習プリントの上段に問題を書き、下段には図・式・答えを書き、図から包含除と等分除のどちらの問題であるかがわかるようにする。 つまずいている子どもには、前時使用した掲示物を参考に考えるように助言する。 <p>等分除と包含除の違いに目をむけるために 「友だちが作った問題は1人分を求める問題、何人分を求める問題のどちらでしょう。わけをいながら答えましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> *二人組での伝え合う活動を行う。 *図やおはじきでの操作などを活用し友だちが作った問題が等分除、包含除どちらの問題か根拠を出させて伝え合う。 *全体での伝え合う活動を行う。 *問題を見て、別の子どもが立式したり操作をしたりする。 <p>等分除同士、包含除同士の共通点に気づかせるために 「友達の問題を1人分を求める問題と、何人分を求める問題の2種類に仲間わけして、わけを伝え合いましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> *操作をしながら、どのように仲間分けをすればいいか、伝え合う。
<p>振 り 返 る</p>	<p>5 本時学習を振り返る</p> <p>まとめ わり算の問題は、1人分をもとめているか、何人分かを求めているかに目をつけるとなにかまわげができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、まとめをする。